



～やけどには気を付けてくださいね～

院長 三和 拓人

彼岸を過ぎても今年はまだまだ暑い日が続きます。

そして、これからの時期は寒くなり、暖房器具などが原因で「やけど」の患者様が増えてきます。

やけどをしたら・・・

水道水で冷やす



- ◆ 最低10分以上。20～30分を目安に
- ◆ 低温の冷やしすぎに注意(氷・保冷剤は過冷却の原因)

Q.冷やすとどんな効果がありますか？

- ◆ やけどの症状が進行するのを、くい止める事が出来ます
- ◆ やけどのあとが残りにくくなります
- ◆ やけどの痛みが和らぎます

症状に応じて、
受診すべきと判断したら



濡れタオルで 冷やしながら来院

参考文献: Up To Date[®]・日本皮膚科学会・日本熱傷学会

やけどをしたら、まずすぐに冷やすことは皆さん出来ています。

が、その後どうしたらいいかわからない方が多いんですよね。

とにかく冷やし続けることが大事です。

次に「傷跡は残りますか？」という質問がよくあるのですが、傷がキレイに早く治るためには次の事項が大事です。

傷がキレイに早く治るための4つのポイント

*wound bed preparation (WBP)は創傷処置、*most wound healing (MWH)は創傷治癒、*創傷治癒の4つのポイントを創傷処置、創傷治癒、創傷予防、創傷ケアと表現しています。

最初に異物の除去を

- 傷口に異物があると治りが悪いです。受傷時、治癒過程時に洗ってください。

感染しないように

- 細菌感染をしていると治りが悪いどころか悪化の可能性も。患部の消毒は確かに殺菌作用はありますが正常な皮膚の細胞をも傷つけてしまうため、明らかな感染徴候が無い限りお勧めできません。傷口の洗浄、抗生物質外用にて対応していきましょう。

浸出液を含んだ潤いは大事ですよ

- 浸出液には傷を治す物質がいっぱい含まれてます。乾燥をさせてはせっかくの浸出液がうまく行きわたりません。潤いを保たせてください。

傷の縁は順調に治ってきてますか？

- 傷は縁から徐々に治っていくものです。治癒過程で出現する壊死物質、不良肉芽(無駄な皮膚の盛り上がり)が傷の治りを邪魔します。適宜除去をしたり処置を変更したり、日々のコントロールが必要です。

参考資料: Up To Date®・日本褥瘡学会・日本皮膚科学会・日本創傷治癒学会

私は上記の表を常に念頭において、治療に携わっています。

まずは、皆様の心がけで初期対応を迅速にさせていただけることが、非常に大事なのをご理解いただきたいと思います。



マスクを着用されず来院される患者様が大変多くなってきました。厚生労働省及び、日本医師会より、医療機関への通院時、介護施設への来訪時、公共交通機関利用時などは、まだマスク着用が推奨されております。病院は免疫力の低い方も来院される所です。他の人への思いやりを忘れず、マスク着用にご協力ください。

各務原市那加桜町 2 - 368 TEL 058-383-6800

三和皮フ科HP : <http://miwahifuka.org/>